

# 富山県立砺波高等学校

## 令和五年度 必履修科目シラバス

|       |   |
|-------|---|
| 国語    | 現代の国語（1年）<br>言語文化（1年）                       |
| 地理・歴史 | 歴史総合（1年）<br>地理総合（2年）<br>日本史B（3年）<br>地理B（3年） |
| 公民    | 公共（1年）                                      |
| 数学    | 数学I（1年）                                     |
| 理科    | 物理基礎（1年）<br>化学基礎（2年）<br>生物基礎（1年）            |
| 保健体育  | 体育（1年、2年、3年）<br>保健（1年、2年）                   |
| 芸術    | 音楽I（1年）<br>美術I（1年）<br>書道I（1年）               |
| 外国語   | 英語コミュニケーションI（1年）                            |
| 家庭    | 家庭基礎（1年）                                    |
| 情報    | 情報I（2年）                                     |

| 教科・科目          |  | 学年   | 単位数   | 教科書   | 補助教材   |
|----------------|--|--|---|---|--|
| 国語<br>現代の国語    |  | 1年   | 2単位   | 探求 現代の国語<br>(桐原書店)  | 「探求 現代の国語 予習復習ノート」<br>(桐原書店)<br>「頻出漢字マスター3000」(尚文出版)<br>「グラusstエップ現代文 1.5」(尚文出版)<br>「新国語総合ガイド」(京都書房) |
| 教科<br>科目<br>目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を下記のとおりに育成することを目指す。 |  |   |   |  |
| 観点別<br>目標      | (1)知識・技能   | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。  |   |   |  |
|                | (2)思考・判断・表現<br>(話す・聞く能力、書く能力、読む能力)                                 | 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 |   |   |  |
|                | (3)主体的に学習に取り組む態度   | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。                             |   |   |  |
| 評価方法           | 定期考査、話し合い活動、レポート、小テスト、課題(問題集)、授業ノート等                               |  |   |   |  |
| 学期             | 月  | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価規準   |  |
| 第1学期           | 4  | ○〈知〉のコミュニティへ   | ○筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、自己を取り巻く世界との関わり合い方を考えることができる。      | (1)特徴的な語彙や文章表現の効果を理解している。<br>(2)「読むこと」において、筆者が理想とする、言葉のあり方や他者理解のあり方について理解している。<br>「話すこと・聞くこと」について、「きっと人は、ちよつとわからないぐらいがちょうどいい。」という筆者の考えに対して自分なりの考えを持ち、話し合いをしている。<br>(3)筆者の考えに自らの経験を照らし合わせて自分なりの言語観を持ち、深めている。           |  |
|                | 5  | ○体験と思索 I   | ○筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、読書について考えることができる。                  | (1)文章の記述と資料との対応関係を理解している。<br>(2)「読むこと」において、筆者が主張する読書の意義について、「言葉」と「本」の関わり方の観点から説明している。<br>(3)「本」や「読書」のあり方について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。  |  |
|                |  | ○評論 I  | ○文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、日本の文化や言葉について時分の考えを深めることができる。                     | (1)具体的なエピソードと筆者の主張との関係について理解している。<br>(2)「読むこと」において、「言葉の力」についての筆者の考えをまとめ、主題を理解している。<br>「書くこと」において、本文の読み取りをもとに、自分にとっての「ささやかなが心に染みた言葉」について、構成や表現を工夫しながら400字程度の文章にまとめている。<br>(3)「言葉の力」というタイトルについて考えることから、教材の内容への関心を高めている。 |  |
|                | 6  | ○評論 II   | ○論理性に着眼して評論を読み解く方法を学んで筆者の考えをまとめ、現代の科学や創造的に読むことについて自分の考えを深めることができる。                    | (1)本文の記述と、写真や年表との対応関係を理解している。<br>(2)「読むこと」において、文明を変化させるのは以外にもその時代にもっとも常識的な社会の通念や良識であるという筆者の考えを的確に捉えている。<br>「書くこと」において、本文の内容を参考に、科学技術の発展が人の考え方に影響を及ぼした例を自分なりに考え、構成や表現を工夫しながら600字程度の文章にまとめている。                          |  |
|                | 7  | ○実社会 I   | ○社会に関連する文章を読み解くことで、実社会との関わり方について自分の考えを深めることができる。                                      | (1)用語を理解し、自ら情報を分類している。<br>(2)「読むこと」において、本文の内容を、情報の扱い方の観点から読み取っている。<br>(3)具体的な事例を実際の経験の中に求め、発表している。  |  |
| 第2学期           | 9  | ○評論 III  | ○文章の構成や論理の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えるとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深めることができる。                   | (1)キーワードの意味を正確に理解している。<br>(2)「読むこと」において、「信任」関係について把握したうえで、現代世に倫理的な行動が要請されることを理解している。<br>「話すこと・聞くこと」において、本文発表後の地球温暖化防止をめぐる最新の世界情勢を調べたうえで、資料を効果的に用いながら討論している。<br>(3)社会問題をめぐる最新の世界情勢を調べ、自ら問題点を見つけ、その解決策を考えている。           |  |
|                | 10   | ○体験と思索 II  | ○他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解したうえで自らの考えを持ち、生きることについての考えを深めることができる。              | (1)筆者の中心的な意見と、それを支える挿話や引用との関係を理解している。<br>(2)「書くこと」において、戦争に関して自ら題材を設定し、筆者の姿勢を参考にしながら戦争体験者の話を聞いたり、資料を調べたりしたうえで、レポートにまとめている。<br>(3)時代や国を超えた人間の普遍的な生き方について関心を持っている。   |  |
|                | 11   | ○評論 IV   | ○コミュニケーションに関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で社会の変遷や他者と自分との関係性について自分の意見を持つことができる。               | (1)抽象的な語彙を正確に理解している。<br>(2)「読むこと」において、「他者の理解」において大切なことは何かを的確に読み取っている。<br>(3)本文中の具体例を通して、他者理解やコミュニケーションについて考えている。  |  |
|                | 12   | ○実社会 II  | ○社会に関連する文章を読み解くことで、実社会との関わり方について自分の考えを深めることができる。                                      | (1)本文をインタビューによる取材内容と、筆者の考察とに分類している。<br>(2)「読むこと」において、「見えない人」の空間や物事の捉え方の特徴を、「見える人」のそれとの比較から理解している。<br>(3)具体的な事例や問題点を調べるなどして、教材の内容への関心を高めている。   |  |
| 第3学期           | 1  | ○評論 V  | ○科学技術や言語についての文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「AI」や「コミュニケーション」といった現代的テーマについて自分の意見を持つことができる。    | (1)多用される指示表現が指す事柄を、それぞれ正確に理解している。<br>(2)「読むこと」において、「AIが人類を未来の消失から救ってくれそうもない」と筆者が心配する理由を理解している。<br>「話すこと・聞くこと」において、AIにあらゆる判断を委ねるようになることは人類にどのような影響を及ぼすかを考え、話し合っている。<br>(3)本文中の用語や論点について調べ、教材の内容への関心を高めている。             |  |
|                | 2  | ○評論 VI   | ○思考の相対化や思想の多様性をテーマとした文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」や「多様性」といった現代的テーマについて自分の意見を持つことができる。 | (1)本文における筆者の主張と、引用される文学作品との関係について理解している。<br>(2)「読むこと」において、自分の身近にある敵対や対立を例にとり、その原因や解決策を本文の内容を踏まえて考察している。<br>(3)他人との合意を求めようとする一方で対立や敵対を生む思想について、社会のあり方と絡めて関心を持っている。   |  |
|                | 3  |  |   |   |  |

| 教科・科目          | 学年  | 単位数  | 教科書   | 補助教材  |
|----------------|---|--|---|---|
| 国語<br>言語文化     | 1年  | 3単位  | 言語文化<br>(数研出版)  | 「言語文化 準拠ワーク」(数研出版)<br>「体系古典文法」(数研出版)<br>「体系古典文法 準拠ノート」(数研出版)<br>「漢文必携」(桐原書店)<br>「漢文必携 チェックノート」(桐原書店)<br>「グラusstep現代文1.5」(尚文出版)<br>「グラusstep古典1.5」(尚文出版)<br>「頻出漢字マスター3000」(尚文出版)<br>「新国語総合ガイド」(京都書房) |
| 教科<br>科目<br>目標 | 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を下記のとおり育成することを目指す。 |  |   |   |
| 観点別<br>目標      | (1)知識・技能  | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。  |   |   |
|                | (2)思考・判断・表現   | 「読むこと」、「書くこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 |   |   |
|                | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。                 |   |   |
| 評価方法           | 定期考査、話し合い活動、レポート、小テスト、課題(問題集)、授業ノート等                              |  |   |   |
| 学期             | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価基準   |
| 第1<br>学期       | 4   | ○古文編 説話<br>「絵仏師良秀」<br>【動詞の活用】  | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>・動詞の9種類の活用について理解できる。            | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>・動詞の9種類の活用について見分け、活用形を答えることができる。  |
|                | 5   | ○古文編 物語<br>「なよ竹のかぐや姫」<br>【形容詞・形容動詞】  | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>・形容詞、形容動詞の理解                                 | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>・形容詞、形容動詞を理解している。  |
|                | 6   | ○近現代編 近代小説(一)<br>「羅生門」   | ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。<br>・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。             | ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。<br>・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  |
|                | 7   | ○漢文編 入門<br>【訓読の基礎・再読文字】<br>○漢文編 故事<br>「狐借虎威」   | ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>・訓読の基礎、再読文字の理解<br>・反語形、使役形の理解               | ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>・訓読の基礎、再読文字、反語形、使役形について理解できる。   |
|                |   | ○古文編 随筆(一)<br>「丹波に出雲といふ所あり」<br>【助動詞】<br>【漢文句法】   | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>・助動詞の意味、活用の理解<br>・漢文句法の理解                    | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>・助動詞の意味、活用の理解<br>・漢文句法を理解している。   |
| 第2<br>学期       | 9   | ○古文編 歌物語<br>「伊勢物語 芥川」<br>「伊勢物語 筒井筒」  | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>・和歌の修辭法の理解                                   | ・古典を読むために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>・和歌の修辭法について理解している。   |
|                | 10  | ○漢文 史伝<br>「先從隗始」<br>「鶏口牛後」   | 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>・反語形、抑揚形の理解<br>・比較形、選択形、反語形の理解               | ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>・反語形、抑揚形を理解している。<br>・比較、選択、反語を理解している。   |
|                |   | ○近現代編 近代小説(二)<br>「城の崎にて」   | ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。<br>・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。             | ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。<br>・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。  |
|                | 11  | ○古文編 日記文学<br>「土佐日記 門出」<br>「土佐日記 帰京」  | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。<br>・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 | ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。<br>・「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。   |
|                | 12  | ○漢文編 漢詩<br>「中国の詩」<br>「日本の詩」  | ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。<br>・漢詩の形式、押韻などの理解                              | ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。<br>・漢詩の形式、押韻などを理解している。   |
| 第3<br>学期       | 1   | ○古文編 随筆(二)<br>「枕草子 中納言参り給ひて」   | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。                             | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。   |
|                | 2   | ○古文編 軍記物語<br>「平家物語 木曾の最期」  | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。<br>・軍記物語の表現の特徴を理解できる。       | ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。<br>・軍記物語の表現の特徴を理解している。  |
|                | 3   | ○漢文編 文章<br>「雑説」  | ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。   | ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  |
|                |   | ○漢文編 思想<br>「論語」<br>「孟子」  | ・作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。   | ・「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。  |

| 教科・科目         | 学年  | 単位数  | 教科書   | 補助教材   |
|---------------|---|--|---|--|
| 地理・歴史<br>歴史総合 | 1   | 2  | 山川出版社<br>『歴史総合 近代から現代へ』   | 新詳歴史総合(浜島書店)<br>歴史総合問題集(山川出版社)   |
| 教科科目<br>目標    | 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |  |   |  |
| 観点別<br>目標     | (1)知識・技能  | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。                            |   |  |
|               | (2)思考・判断・表現   | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 |   |  |
|               | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。    |   |  |
| 評価方法          | 定期考査、発表の取り組みおよびレポート、課題(問題演習、小テスト)   |  |   |  |
| 学期            | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価基準  |
| 第1学期          | 4   | I部 2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立<br>1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命<br>2 19世紀のヨーロッパ<br>3 アジアの変容と植民地化<br>4 中国の開港と日本の開国   | 16世紀にはアジア各地で大帝国が成立し繁栄していたこと、同時期にヨーロッパ各国がアジアに進出し、世界的な規模で経済が発展していったことを理解する。   | (1) 18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。<br>産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。 |
|               | 5   | 3章 明治維新と日本の立憲体制<br>1 明治初期の対外関係<br>2 自由民権運動と立憲体制  | 欧米諸国との外交関係に留意しながら、日本が欧米の新技术の導入をどのように進めたかを理解する。  | (2) 産業革命の影響、日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。            |
|               | 6   | 4章 帝国主義の展開とアジア<br>1 条約改正と日清戦争  | 19世紀末の朝鮮国内の動きに対して、日本と清がどのように関与したか、また朝鮮をめぐる両国が対立するに至った過程について理解する。  | (3) 18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し表現して、アジアの経済と社会を、主体的に理解している。                                       |
|               | 7   | 2 帝国主義と列強の展開<br>3 日露戦争とその影響  | 日露戦争後の国際関係の変化に留意して、日本が韓国植民地化と満洲支配を進めた経緯を考察する  |  |
| 第2学期          | 9   | II部 国際秩序の変化や大衆化と私たち<br>5章 第一次世界大戦と大衆社会   | バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察する。<br>国際協調のなかで結ばれた条約の内容を理解し、国際協調のなかで模索されたものは何か考察する。                            | (1) 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。                               |
|               | 10  | 6章 経済危機と第二次世界大戦  | ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。<br>第二次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。  | (2) 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。                           |
|               | 12  | 7章 戦後の国際秩序と日本の改革   | 第二次世界大戦後の国際社会が、どのようにして新たな国際秩序を構築したかを考察する。   | (3) 第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察したり表現したりして、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を主体的に理解している。                                   |
| 第3学期          | 1   | 8章 冷戦と世界経済<br>9章 グローバル化する世界  | 第二次世界大戦後の西ヨーロッパの地位の低下と、各国の戦後復興の状況を理解する。<br>ゴルバチョフが主導したペレストロイカと呼ばれるソ連の社会主義体制の抜本的な改革の過程について理解するとともに、改革の実施にもかかわらずソ連が崩壊した理由について考察 | (1) 冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。                                   |
|               | 2   | 10章 現代の課題  | 地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、その要因を理解し、どのように対応していけばよいかを考察する。  | (2) 冷戦の変容と終結の背景、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、冷戦終結後の国際政治の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。  |
|               | 3   |  |   | (3) 地域紛争と冷戦の関係、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを考察したり表現したりして、国際政治の変容を主体的に追求している。   |

| 教科・科目      | 学年  | 単位数  | 教科書   | 補助教材  |
|------------|---|--|---|---|
| 地歴公民・地理総合  | 2   | 2  | 高等学校 新地理総合<br>(帝国書院)  | 新編フォトグラフィア地理図説2023<br>(とうほう)  |
| 教科科目<br>目標 | 社会的な事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 |  |   |   |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。                                   |   |   |
|            | (2)思考・判断・表現   | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 |   |   |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。  |   |   |
| 評価方法       | 定期考査、発表の取り組みおよびレポート課題、問題演習課題、GIS提出課題  |  |   |   |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価規準   |
| 第1<br>学期   | 4   | 第1部 地図でとらえる現代世界<br>第1章 地図と地理情報システム<br>1節 地図上の位置と時差<br>2節 地図の役割と種類<br>第2章 結びつきを深める現代世界<br>1節 現代世界の国家と領域   | 第1部 地図でとらえる現代世界<br>・現代世界の地域構成について地図などをもとに方位や時差、領域、国家間の結びつきなどを理解するとともに多面的多角的に考察する。<br>・地理情報について、その情報を収集し、その役割や有用性について理解する。   | 第1部 地図でとらえる現代世界<br>・現代世界の地域構成について地図などをもとに方位や時差、領域、国家間の結びつきなどを理解するとともに多面的多角的に考察している。<br>・地理情報について、その情報を収集し、その役割や有用性について理解している。   |
|            | 5   | 中間考査<br>2節 グローバル化する世界<br>第2部 国際理解と国際協力   | 第2部 国際理解と国際協力<br>第1章 生活文化の多様性と国際理解  | 第2部 国際理解と国際協力<br>第1章 生活文化の多様性と国際理解  |
|            | 6   | 第1章 生活文化の多様性と国際理解<br>1節 世界の地形と人々の生活<br>1～3 大地形   | ・世界の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、地理的環境の変容によって変容することについて理解する。<br>・世界の人々の特色ある生活文化をもとに自他の文化を理解し、国際理解を図る。   | ・世界の人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、地理的環境の変容によって変容することについて理解している。<br>・世界の人々の特色ある生活文化をもとに自他の文化を理解し、国際理解を図っている。  |
|            | 7   | 期末考査<br>4～6 小地形  |   |   |
| 第2<br>学期   | 9   | 4～6 小地形<br>2節 世界の気候と人々の生活<br>1～3 気候要素、植生、気候区分<br>4～7 各気候帯の生活   |   |   |
|            | 10  | 中間考査<br>3節 世界の言語・宗教と人々の生活<br>4節 歴史的背景と人々の生活<br>5節 世界の産業と人々の生活<br>第2章 地球的課題と国際協力  | 第2章 地球的課題と国際協力<br>・世界各地で見られる地球的課題について、各地で共通する傾向性や関連性について理解する。<br>・世界各地で見られる地球的課題について、この解決について各国の取り組みや国際協力が必要であることについて理解する。  | 第2章 地球的課題と国際協力<br>・世界各地で見られる地球的課題について、各地で共通する傾向性や関連性について理解している。<br>・世界各地で見られる地球的課題について、この解決について各国の取り組みや国際協力が必要であることについて理解している。  |
|            | 11  | 1節 複雑に絡み合う地球的課題<br>2節 地球環境問題<br>期末考査   | ・世界各地で見られる地球的課題について地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して多面的、多角的に考察する。   | ・世界各地で見られる地球的課題について地域の結びつきや持続可能な社会づくりなどに着目して多面的、多角的に考察している。   |
|            | 12  | 3節 資源・エネルギー問題<br>4節 人口問題<br>5節 食料問題<br>6節 都市・居住問題  |   |   |
| 第3<br>学期   | 1   | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち<br>第1章 日本の自然環境<br>1節 日本の自然環境<br>2節 地震・津波と防災<br>3節 火山災害と防災<br>4節 気象災害と防災<br>5節 自然災害への備え  | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち<br>第1章 日本の自然環境<br>・自然災害をもとに地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。<br>・自然災害に対応したハザードマップなどの地理情報について地理技能を身に付ける。<br>・地域性を踏まえた防災について自然災害への備えや対応など、多面的・多角的に考察し、表現する。 | 第3部 持続可能な地域づくりと私たち<br>第1章 日本の自然環境<br>・自然災害をもとに地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。<br>・自然災害に対応したハザードマップなどの地理情報について地理技能を身に付けている。<br>・地域性を踏まえた防災について自然災害への備えや対応など、多面的・多角的に考察し、表現している。 |
|            | 2   | 第2章 生活圏の調査と地域の展望<br>1節 生活圏の調査と地域の展望<br>学年末考査   | 第2章 生活圏の調査と地域の展望<br>・生活圏の調査をもとに、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法について理解する。<br>・生活圏の地理的な課題について解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想、表現する。  | 第2章 生活圏の調査と地域の展望<br>・生活圏の調査をもとに、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法について理解している。<br>・生活圏の地理的な課題について解決に求められる取り組みなどを多面的・多角的に考察、構想、表現している。  |
|            | 3   |  |   |   |

| 教科・科目               | 対象学年   | 単位数     | 教科書   | 使用教材(副教材)       |
|---------------------|--|---------|---|-----------------|
| 地理歴史・日本史B           | 3年   | 7<br>単位 | 詳説日本史改訂版<br>(山川出版社)   | 新詳日本史<br>(浜島書店) |
| 科目の概要と目標            | わが国の歴史の展開を諸史料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、わが国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的考察力を培い、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 |         |   |                 |
| 単元                  | 学習内容   |         | 到達度目標   |                 |
| 第8章<br>幕藩体制の動揺      | 1 幕政の改革<br>2 宝暦・天明期の文化<br>3 幕府の衰退と近代への道<br>4 化政文化  |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市や農村の変容により幕藩体制が動揺、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を理解する。</li> <li>・列強の接近など国際情勢の変化やそれに対する幕府の対応から幕府の衰退を見ることができる。</li> <li>・幕藩体制への批判的思想の登場、出版文化や庶民教育による文化の展開について理解する。</li> </ul>  |                 |
| 第9章<br>近代国家の成立      | 1 開国と幕末の動乱<br>2 明治維新と富国強兵<br>3 立憲国家の成立と日清戦争<br>4 日露戦争と国際関係<br>5 近代産業の発展<br>6 近代文化の発達                               |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会に組み込まれることで起こる変化に着目して、幕末から明治までの政局の変化を考察する。</li> <li>・明治政府の制度改革や富国強兵策などに着目し、国家的統一過程、さらに立憲国家の成立の過程を考察する。</li> <li>・列強諸国との関係の変化が条約改正交渉に与えた影響や、日清・日露戦争を通じて日本国内及び近隣諸国に与えた影響を理解する。</li> <li>・日本の産業革命による資本主義体制の基礎の確立と、近代産業の発展に伴う社会問題の発生について考察する。</li> </ul> |                 |
| 第10章<br>二つの世界大戦とアジア | 1 第一次世界大戦と日本<br>2 ワシントン体制<br>3 市民生活の変容と大衆文化<br>4 恐慌の時代<br>5 軍部の台頭<br>6 第二次世界大戦                                     |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・政党政治の発展や中国進出の状況を踏まえ、第一次大戦前後の政治・外交の動向や推移を考察する。</li> <li>・さまざまな社会運動が民主主義的な傾向の中で展開したことを理解する。</li> <li>・国際協調体制の進展から世界情勢の変化に伴う国際的孤立の過程を国内外の政治状況や経済動向などを踏まえながら考察する。</li> <li>・軍部の政治的進出の過程を理解する。</li> </ul>  |                 |
| 第11章<br>占領下の日本      | 1 占領と改革<br>2 冷戦の開始と講和  |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対日占領政策に伴う戦後の諸改革について、戦後の世界秩序を踏まえて考察する。</li> <li>・東西冷戦が対日占領政策にもたらした影響を日米関係や近隣諸国との関係から理解する。</li> </ul>   |                 |
| 第12章<br>高度成長の時代     | 1 55年体制<br>2 経済復興から高度成長へ   |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・独立後の国内政治を55年体制の成立・保守安定政権の流れで理解する。</li> <li>・独立回復後の近隣諸国との外交関係を考察する。</li> <li>・特需景気以降の高度経済成長について、経済の国際化・国内の技術革新の側面に着目して考察する。</li> </ul>   |                 |
| 第13章<br>激動する世界と日本   | 1 経済大国への道<br>2 冷戦終結と日本社会の変容  |         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油危機以降の世界の動きと、日本の経済動向について理解する。</li> <li>・冷戦終結後の日本の経済動向、国際社会との関連について考察する。</li> </ul>   |                 |

| 教科・科目  | 対象学年  | 単位数  | 教科書                           | 使用教材(副教材)  |
|--|---|--|-------------------------------|--|
| 地理歴史<br>地理B  | 3年  | 4単位  | 新詳地理B (帝国書院)<br>新詳高等地図 (帝国書院) | 新詳地理資料 COMPLETE2022 (帝国書院)<br>2023データブック (二宮書店)<br>サクシード地理 (啓隆社) |
| 科目の概要と目標   | 現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。                                 |  |                               |  |
| 単元   | 学習内容  | 到達度目標  |                               |  |
| 第Ⅱ部<br>現代世界の系統地理的考察【林業・水産業】<br>【資源・エネルギー】<br>【産業：工業】 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・林業・水産業</li> <li>・エネルギー・鉱産資源</li> <li>・工業の発達と立地</li> <li>・世界の工業地域</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の林業、水産業の特徴について理解する。</li> <li>・世界のエネルギー・鉱産資源の分布とその利用について理解する。</li> <li>・工業の発達、立地について理解し、その変化について考察する。</li> <li>・世界の工業地域の特徴とその変容について理解する。</li> </ul> |                               |  |
| 【第3次産業】  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業</li> <li>・余暇・観光</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の消費行動について理解する。</li> <li>・日本とヨーロッパの余暇活動の相違について理解する。</li> </ul>   |                               |  |
| 【交通・通信】<br>【貿易】                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の交通網</li> <li>・情報</li> <li>・貿易</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・水上・鉄道・自動車・航空交通の特徴について理解する。</li> <li>・情報と通信の発達について理解する。</li> <li>・国際分業と貿易の地域間格差を考察することができる。</li> </ul>  |                               |  |
| 【人口、村落と都市】   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・人口の現状と人口問題</li> <li>・村落と都市</li> <li>・都市問題</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界や日本の人口の現状を知り、先進国と途上国の人口問題の差異について考察することができる。</li> <li>・現在の集落の立地や成り立ちについて理解する。</li> <li>・世界の都市・居住問題について考察することができる。</li> </ul>                        |                               |  |
| 【生活文化、<br>民族・宗教】                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活文化</li> <li>・民族と宗教</li> <li>・国家、民族、領土問題</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の衣食住の地域的差異や世界的な画一化について理解する。</li> <li>・世界の民族・言語・宗教について理解する。</li> <li>・民族問題について世界的視野を持って追求し、その解決に何が必要なのかを考えることができる。</li> </ul>                       |                               |  |
| 第Ⅲ部<br>現代世界の地誌的考察<br>【地域区分】<br>【現代世界の諸地域】            | 東アジア<br>東南アジア<br>南アジア<br>西・中央アジア<br>アフリカ<br>ヨーロッパ<br>ロシア<br>アングロアメリカ<br>ラテンアメリカ<br>オセアニア                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点を理解する</li> <li>・それぞれの地域の自然環境や文化等を知り、他地域との比較でその地域の特徴を深く理解する。</li> </ul>   |                               |  |
| 第Ⅲ部<br>【現代世界と日本】                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代世界と日本</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の日本を知り課題や将来のありかたを展望する。</li> </ul>  |                               |  |



| 教科・科目      | 学年   | 単位数   | 教科書   | 補助教材   |
|------------|--|---|---|--|
| 公民科<br>公共  | 1学年  | 2   | 公共(実教出版)  | テーマ別資料 公共2023(とうほう)<br>新公共要点ノート(啓隆社)   |
| 教科科目<br>目標 | 人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 |   |   |  |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能   | 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。   |   |  |
|            | (2)思考・判断・表現  | 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。  |   |  |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度   | よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。 |   |  |
| 評価方法       |  |   |   |  |
| 学期         | 月  | 学習内容(内容のまとめ、章)  | 学習目標  | 観点別評価基準  |
| 第1学期       | 4  | 第1部 公共の扉<br>第1章 社会を作る私たち<br>第2章 人間としてよく生きる  | ・社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きるうえで、何を考え行動すればよいかを理解する。<br>・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 | (1)選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を理解しており、人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理についての知識を身に付けている。<br>(2)公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現することができる。<br>(3)よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。   |
|            | 5  | 第3章 他者とともに生きる   | ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。  |  |
|            | 6  | 第4章 民主社会の倫理   | ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。<br>・公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。                      |  |
|            | 7  | 第5章 民主国家における基本原理  |   |  |
| 第2学期       | 9  | 第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法<br>第1章 日本国憲法の基本的性格  | ・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法のもとで権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。   | (1)憲法のもとで権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解し、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。<br>(2)自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。<br>(3)よりよい社会の実現を視野に、現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。  |
|            | 10   | 第2章 日本の政治機構と政治参加  | ・政治参加と公正な世論の形成などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。                         |  |
|            | 11   |   | ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。   |  |
| 第3学期       | 12   | 2 現代の経済社会と国民生活<br>第1章 現代の経済社会   | ・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。    | (1)公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解し、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。<br>(2)自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。<br>(3)よりよい社会の実現を視野に、現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 |
|            | 1  | 第2章 日本経済の特質と国民生活  | ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。   |  |
|            | 2  |   | ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。                                     |  |
|            | 3  |   |   |  |



| 教科・科目      |  | 学年   | 単位数   | 教科書   | 補助教材          |
|------------|--|--|---|---|---------------|
| 数学 I       |  | 1  | 2   | 高等学校 数学 I   | サクシード数学 I + A |
| 教科科目<br>目標 | 数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 |  |   |   |               |
| 観点別<br>目標  | (1) 知識・技能  | 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。  |   |   |               |
|            | (2) 思考・判断・表現   | 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 |   |   |               |
|            | (3) 主体的に学習に取り組む態度  | 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。   |   |   |               |
| 評価方法       | 定期考査、課題、小テスト   |  |   |   |               |
| 学期         | 月  | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価規準   |               |
| 第1学期       | 4  | 第1章 数と式<br>第1節 式の計算<br>第2節 実数<br>第3節 1次不等式   | ・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を養う。<br>・中学校までに取ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようになる。<br>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。 | (1)<br>・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることができる。<br>・二次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることができる。<br>・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、一次不等式の解を求めることができる。<br>(2)<br>・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。<br>・一次方程式を解く方法や不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。<br>・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。<br>(3)<br>・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。  |               |
|            | 5  |  |   |   |               |
|            | 6  | 第3章 2次関数<br>第1節 2次関数とグラフ<br>第2節 2次関数と値の変化  | ・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。<br>・2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようになる。   | (1)<br>・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。<br>・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。<br>・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。<br>(2)<br>・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。<br>・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。<br>(3)<br>・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。  |               |
|            | 7  | 第5章 データの分析   | データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。  | (1)<br>・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。<br>・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。<br>・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。<br>(2)<br>・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。<br>・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。<br>・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。<br>(3)<br>・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。         |               |
|            |  | 第2章 集合と論証  | 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。  | (1)集合と命題に関する基本的な概念を理解している。<br>(2)集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることができる。   |               |
| 第2学期       | 9  | 第3章 2次関数<br>第3節 2次不等式  | ・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。  | (1)<br>二次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。<br>(2)<br>二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。<br>(3)<br>・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。   |               |
|            | 10   | 第4章 図形と計量<br>第1節 三角比<br>第2節 三角形への応用  | ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。<br>・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。  | (1)<br>・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。<br>・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。<br>・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。<br>・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。<br>(2)<br>・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。<br>(3)<br>・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。<br>・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。<br>(3)<br>・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。<br>・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |               |
|            | 11   |  |   |   |               |
|            | 12   |  |   |   |               |
| 第3学期       | 1  |  |   |   |               |
|            | 2  |  |   |   |               |
|            | 3  |  |   |   |               |

| 教科・科目          |   | 学年   | 単位数   | 教科書   | 補助教材                                   |   |  |  |
|----------------|---|--|---|---|--|---|--|--|
| 理科<br>物理基礎     |   | 1年   | 2単位   | 高等学校 物理基礎<br>(啓林館)  | ステップアップノート物理基礎(啓林館)<br>セミナー物理基礎(第一学習社) |   |  |  |
| 教科<br>科目<br>目標 | 物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 |  |   |   |  |   |  |  |
| 観点別<br>目標      | (1)知識・技能  | 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 |   |   |  |   |  |  |
|                | (2)思考・判断・表現   | 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。   |   |   |  |   |  |  |
|                | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。  |   |   |  |   |  |  |
| 評価方法           | 定期考査, 実験実習の取り組みおよびレポート, 課題(問題演習, 小テスト)  |  |   |   |  |   |  |  |
| 学期             | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価基準   |  |   |  |  |
| 第1学期           | 4   | 第1部 物体の運動とエネルギー<br>第1章 物体の運動   | ・物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解する。<br>・物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。<br>・物体が落下する際の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解する。                       | (1)<br>物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 |  |   |  |  |
|                | 5   |  |   |   |  |   |  |  |
|                | 6   |  |   |   |  | 第2章 力と運動  | (2)<br>物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現している。                  |  |
|                | 7   |  |   |   |  |   |  |  |
| 第2学期           | 9   | 第3章 仕事とエネルギー   | ・物理における仕事とは何かを理解する。<br>・運動エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。<br>・位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。<br>・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連づけて理解する。                 | (3)<br>日常に起こる物体の運動についての観察、実験などを通して、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を理解しようとする主体的に取り組んでいる。                |  |   |  |  |
|                | 10  |  |   |   |  |   |  |  |
|                | 11  |  |   |   |  | 第2部 熱<br>第1章 熱とエネルギー                            | (1)<br>様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。 |  |
|                | 12  |  |   |   |  |   |  |  |
| 第3学期           | 1   | 第3部 波<br>第1章 波の性質<br>第2章 音<br>第4部 電気と磁気<br>第1章 静電気と電流<br>第2章 交流と電磁波                      | ・波の種類と違い、性質、波が伝わる際の媒質の変化を理解する。<br>・音の三要素、気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。<br>・静電気や電流、電圧、電気抵抗の相互の関係と熱作用を理解する。<br>・電磁誘導、電流の種類と電磁波について理解する。 | (2)<br>様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験などを通して探究し、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現している。                        |  |   |  |  |
|                | 2   |  |   |   |  |   |  |  |
|                | 3   |  |   |   |  | 第5部 物理と私たちの生活<br>第1章 エネルギーとその利用<br>第2章 物理学が拓く世界 | (3)<br>様々な物理現象についての観察、実験などを通して、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を理解しようとする主体的に取り組んでいる。                         |  |
|                |   |  |   |   |  |   |  |  |

| 教科・科目      |   | 学年   | 単位数  | 教科書  | 補助教材                       |
|------------|---|--|--|--|----------------------------|
| 理科<br>化学基礎 |   | 2年文系   | 2単位  | i版 化学基礎<br>(化基707)<br>(啓林館)  | リードLightノート 化学基礎<br>(教研出版) |
| 教科科目<br>目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 |  |  |  |                            |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 |  |  |                            |
|            | (2)思考・判断・表現   | 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。  |  |  |                            |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。   |  |  |                            |
| 評価方法       | 定期考査、実験於取り組み及びレポート、課題(問題演習、小テスト)  |  |  |  |                            |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準  |                            |
| 第1学期       | 4   | 序章「化学」って何？<br>第1部 物質の構成<br>第1章 化学と物質   | ・物質の分類や化学の生活の中の役割を、積極的に探究しようとする。<br><br>・物質の構造・状態・性質に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。  | (1)<br>原子の構造及び電子配置と周期律との関係及び化学結合と物質の性質との関係を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。     |                            |
|            | 5   | 第2章 物質の構成粒子  | ・物質の構成粒子としての原子の構造および電子配置の規則性について関心をもち、そのことが原子の性質についてどのように関連しているか、またイオンの生成について意欲的に探究しようとする。   | (2)<br>物質の性質について、観察、実験などを通して探究し、物質について徹視的な見方ができるようになり、科学的に考察し、表現している。                |                            |
|            | 6   | 第3章 化学結合   | ・イオン結合の仕組みについて関心をもち、イオン結晶やイオン化エネルギー等についても意欲的に探究しようとする。   | (3)<br>観察、実験などを通して、化学結合と物質の性質との関係を理解しようとする主体的に取り組んでいる。                               |                            |
|            | 7   |  | ・分子の生成と共有結合の仕組みについて関心をもち、配位結合、電気陰性度、結合の極性等についても意欲的に探究しようとする。   |  |                            |
| 第2学期       | 9   | 第2部 物質の変化<br>第1章 物質質量と化学反応   | ・相対質量としての原子量、分子量、式量を理解し、基準となる $^{12}\text{C}$ や同位体の存在比の扱い等について意欲的に探究しようとする。<br>・原子や分子の量としての物質質量について関心をもち、アボガドロ数、モル質量、溶液の濃度等について意欲的に探究しようとする。 | (1)<br>化学反応に関する基本的な概念や法則を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。                       |                            |
|            | 10  |  |  | (2)<br>化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、それらを日常生活や社会と関連付けて科学的に考察し、表現している。 |                            |
|            | 11  | 第2章 酸と塩基   | ・酸と塩基の異なる定義や性質について関心をもち、価数、強弱、具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。<br>・pHについて関心をもち、定義や具体的な数値、身近な物質のpHについて意欲的に探究しようとする。                                  | (3)<br>観察、実験などを通して、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解しようとする主体的に取り組んでいる。                            |                            |
|            | 12  |  |  |  |                            |
| 第3学期       | 1   | 第3章 酸化還元反応   | ・酸化還元反応について関心をもち、電子の授受や酸化数の観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて理解する。  |  |                            |
|            | 2   |  | ・金属のイオン化傾向について関心をもち、酸素、水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。  |  |                            |
|            | 3   |  |  |  |                            |

| 教科・科目      |   | 学年   | 単位数  | 教科書   | 補助教材                                 |
|------------|---|--|--|---|--------------------------------------|
| 理科<br>化学基礎 |   | 2年理系   | 2単位  | 化学基礎<br>(数研出版)  | セミナー化学基礎(第一学習社)<br>スクエア最新図説化学(第一学習社) |
| 教科科目<br>目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 |  |  |   |                                      |
| 観点別<br>目標  | (1) 知識・技能   | 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 |  |   |                                      |
|            | (2) 思考・判断・表現  | 物質とその変化から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。  |  |   |                                      |
|            | (3) 主体的に学習に取り組む態度   | 物質とその変化に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。   |  |   |                                      |
| 評価方法       | 定期考査、実験於取り組み及びレポート、課題(問題演習、小テスト)  |  |  |   |                                      |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準   |                                      |
| 第1学期       | 4   | 第1編<br>第1章 物質の構成   | ・物質の分類や化学の生活の中の役割を、積極的に探究しようとする。<br><br>・物質の構造・状態・性質に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。  | (1)<br>電子配置と周期律との関係及び化学結合と物質の性質との関係を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。 |                                      |
|            | 5   | 第2章 物質の構成粒子  | ・イオン結合の仕組みについて関心をもち、イオン結晶やイオン化エネルギー等についても意欲的に探究しようとする。   | (2)<br>物質について微視的な見方ができるようになり、科学的に考察し、表現している。                              |                                      |
|            |   | 第3章 粒子の結合  | ・分子の生成と共有結合の仕組みについて関心をもち、意欲的に探究しようとする。   | (3)<br>化学結合と物質の性質との関係を理解しようとする。   |                                      |
|            | 6   | 第2編<br>第1章 物質と化学反応式  | ・相対質量としての原子量、分子量、式量を理解し、基準となる $^{12}\text{C}$ や同位体の存在比の扱い等について意欲的に探究しようとする。<br><br>・原子や分子の量としての物質質量について関心をもち、アボガドロ数、モル質量、溶液の濃度等について意欲的に探究しようとする。 | (1)<br>化学反応に関する基本的な概念や法則を理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身につけている。            |                                      |
| 7          |   |  | (2)<br>化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応について、観察、実験などを通して探究し、それらを日常生活や社会と関連付けて科学的に考察し、表現している。   |   |                                      |
| 第2学期       | 9   | 第2章 酸と塩基の反応  | ・酸と塩基の異なる定義や性質について関心をもち、価数、強弱、具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。  | (3)<br>観察、実験などを通して、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解しようとする。                            |                                      |
|            | 10  | 第3章 酸化還元反応   | ・酸化還元反応について関心をもち、電子の授受や酸化数の観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて理解する。  | (3)<br>観察、実験などを通して、化学反応に関する基本的な概念や法則を理解しようとする。                            |                                      |
|            | 11  |  |  |   |                                      |
|            | 12  |  |  |   |                                      |
| 第3学期       | 1   |  |  |   |                                      |
|            | 2   |  |  |   |                                      |
|            | 3   |  |  |   |                                      |

| 教科・科目      |   | 学年   | 単位数   | 教科書   | 補助教材                   |
|------------|---|--|---|---|------------------------|
| 理科<br>生物基礎 |   | 1年   | 2単位   | 生物基礎<br>(生基707)<br>(数研出版)   | リードα<br>生物基礎<br>(数研出版) |
| 教科科目<br>目標 | 日常的な生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 |  |   |   |                        |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 |   |   |                        |
|            | (2)思考・判断・表現   | 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。   |   |   |                        |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 生物や生物現象に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。                            |   |   |                        |
| 評価方法       | 定期考査実験実習の取り組みおよびレポート、課題(問題演習、小テスト)  |  |   |   |                        |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価規準   |                        |
| 第1<br>学期   | 4   | 1. 顕微鏡観察の基本操作<br>2. ミクロメーターによる測定   | ・実験・観察を通して顕微鏡やマイクロメーターの使い方を理解し、適切に使用することができる。   | (1)生体や生態を構成する構造物や物質の特徴や、呼吸や光合成などの代謝、遺伝情報の発現の仕組みを理解しているとともに、観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。               |                        |
|            | 5   | 第1章 生物の特徴<br>1. 生物の多様性と共通性<br>2. エネルギーと代謝<br>3. 呼吸と光合成                           | ・生物の共通性を起源の共有と関連付けて理解する。<br>・生命活動にはエネルギーが必要であり、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。   | (2)生体や生態を構成する構造物や物質の構造や特徴について、観察、実験などを通して探究し、光合成や呼吸、遺伝情報の発現などの生物現象との関係性を見出して表現している。                           |                        |
|            | 6   | 第2章 遺伝子とのはたらき<br>1. 遺伝情報とDNA<br>2. 遺伝情報の複製と分配<br>3. 遺伝情報の発現                      | ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴と構造を理解する。<br>・DNAの相補性と複製を関連付けて理解する。<br>・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。                            | (3)生物や、光合成や呼吸などの代謝、遺伝情報の発現などの生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究をしようとしている。                                 |                        |
|            | 7   |  |   |   |                        |
| 第2<br>学期   | 9   | 第3章 ヒトの体内環境の維持<br>1. 体内環境での情報伝達と調節<br>2. 体内環境の維持のしくみ<br>3. 免疫のはたらき               | ・体内環境の調節に関する観察、実験を通して、体内の情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。<br>・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解する。<br>・体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。                  | (1)体内環境の調節について、情報の伝達や体内環境の維持の仕組みの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。 |                        |
|            | 10  |  |   | (2)体内環境の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節の特徴や免疫のはたらきと病気の関係などを見出して表現している。                                    |                        |
|            | 11  |  | ・自然免疫・適応免疫のしくみや免疫記憶のしくみとそれにはたらく細胞の役割を理解する。<br>・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。                         | (3)体内環境の調節に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。   |                        |
|            | 12  |  |   |   |                        |
| 第3<br>学期   | 1   | 第4章 生物の多様性と生態系<br>1. 植生と遷移<br>2. 植生の分布とバイオーム<br>3. 生態系と生物の多様性<br>4. 生態系のバランスと保全  | ・遷移の過程と要因を理解する。<br>・植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。  | (1)生態系と生物の多様性、生態系のバランスと保全の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。        |                        |
|            | 2   |  | ・生態系と生物の多様性に関する観察、実験を通して、生態系における生物多様性を理解する。<br>・生物の種多様性と生物間の関係性を関連付けて理解する。<br>・生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。<br>・生態系の保全の重要性を認識する。 | (2)生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見出して表現している。   |                        |
|            | 3   |  |   | (3)生態系とその保全に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。  |                        |





| 教科・科目      | 学年  | 単位数   | 教科書   | 補助教材  |  |
|------------|---|---|---|---|--|
| 保健体育<br>体育 | 2年  | 2単位   | 高等学校保健体育<br>(第一学習社)   | ステップアップ高校スポーツ<br>(大修館書店)  |  |
| 教科科目<br>目標 | 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |   |   |   |  |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。          |   |   |  |
|            | (2)思考・判断・表現   | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。  |   |   |  |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。 |   |   |  |
| 評価方法       | 実技テスト、授業の取り組み(準備運動、アップ)   |   |   |   |  |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)  | 学習目標  | 観点別評価規準   |  |
| 第1学期       | 4   | A体づくり運動(4・5月)   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。</li> <li>・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。</li> <li>(2) ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>(3) ・体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。</li> <li>・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができる。</li> </ul>                                 |  |
|            | 5   | 選択体育 I (5～7月)<br>E球技<br>・ゴール型<br>(バスケットボール/ラグビー)<br>・ベースボール型<br>(ソフトボール)<br>・ネット型<br>(ソフトテニス/バレーボール)                | <b>【E球技】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</li> <li>・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができる。</li> </ul> <b>【Gダンス】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。</li> <li>・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>・ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもち、健康・安全を確保することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。</li> <li>・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</li> <li>(2) ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>(3) ・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができる。</li> </ul> |  |
|            | 6   |   |   |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。</li> <li>・イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。</li> <li>(2) ・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。</li> <li>・自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</li> <li>(3) ・ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもち、健康・安全を確保することができる。</li> </ul> |
|            | 7   | H体育理論(7月)   | <b>【H体育理論】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての各分野の理解を深めることができる。</li> <li>・課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断することができる。</li> <li>・学習に自主的に取り組むことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解しようとしている。</li> <li>(2) ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断しようとしているとともに、他者に伝えようとしている。</li> <li>(3) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。</li> </ul>  |  |



| 教科・科目  | 対象学年  | 単位数  | 教科書                 | 使用教材(副教材)                |
|--|---|--|---------------------|--------------------------|
| 保健体育<br>体育   | 3年  | 3単位  | 高等学校保健体育<br>(第一学習社) | ステップアップ高校スポーツ<br>(大修館書店) |
| 科目の概要と目標   | <p>各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。</p> <p>(1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上</p> |  |                     |                          |
| (各領域) 単元   | 学習内容  | 到達度目標  |                     |                          |
| (体づくり運動)<br>体ほぐしの運動<br>体力を高める運動  | 新体力テスト<br>体の動きを高める運動<br>パートナーストレッチ<br>サーキットトレーニング   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。</li> <li>・自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫できるようになる。</li> </ul>  |                     |                          |
| □選択種目□<br>ラグビー<br>サッカー<br>バスケットボール<br>バレーボール<br>卓球<br>バドミントン<br>テニス<br>ソフトボール<br>柔道<br>剣道<br>ダンス<br>器械運動 他 | 個人技能<br>集団技能<br>審判法<br>ゲーム  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。</li> <li>・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。</li> <li>・現代的な音楽のリズムの特性を生かし、リズムに乗りながら、動きの多様性を考え、工夫し、踊ることができるようになる。</li> <li>・チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。</li> </ul> |                     |                          |
| (陸上競技)<br>走運動  | 短距離走<br>リレー   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。</li> <li>・自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。</li> </ul>   |                     |                          |
| (体育理論)<br>豊かなスポーツライフの<br>ために   | 生活のなかのスポーツ<br>スポーツ振興と自然環境   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後においても、自分に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくために、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへのかかわり方の特徴や条件があることを理解する。</li> <li>・無理なくスポーツを継続するための計画を立てることと、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツ振興に向けた施策や条件、スポーツが及ぼす環境への影響に配慮することなどがあることについて理解する。</li> </ul>   |                     |                          |

| 教科・科目      | 学年  | 単位数  | 教科書  | 補助教材   |
|------------|---|--|--|--|
| 保健体育<br>保健 | 1年  | 1単位  | 高等学校保健体育<br>(第一学習社)  | なし   |
| 教科科目<br>目標 | 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 |  |  |  |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。   |  |  |
|            | (2)思考・判断・表現   | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。                                       |  |  |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。   |  |  |
| 評価方法       | 定期考査、授業の取り組み、課題(ノート、プリント)   |  |  |  |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準  |
| 第1<br>学期   | 4   | 第2章 安全な社会生活<br>第1節 安全な社会づくり<br><br>第2節 応急手当  | ・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全について理解することができる。<br>・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。<br>・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全についての学習に自主的に取り組むことができる。<br><br>・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について理解することができる。<br>・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。<br>・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法についての学習に自主的に取り組むことができる。 | (1)<br>・安全な社会生活について理解を深める。<br>・応急手当を適切に行うことができ<br><br>(2)<br>安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。<br><br>(3)<br>安全な社会生活についての学習に自主的に取り組むことができる。   |
|            | 5   |  |  |  |
|            | 6   |  |  |  |
|            | 7   |  |  |  |
| 第2<br>学期   | 9   | 第1章 現代社会と健康<br>第1節 健康の考え方<br>第2節 現代の感染症とその予防<br>第3節 生活習慣病などの予防と回復<br>第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康<br>第5節 精神疾患の予防と回復 | ・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進について理解することができる。<br>・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。<br>・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進についての学習に自主的に取り組むことができる。<br><br>・感染症とその予防について理解することができる。<br>・感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。<br>・感染症とその予防についての学習に自主的に取り組むことができる。  | (1)<br>以下の点について、理解している。<br>・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。<br>・健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。<br>・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び<br>・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。<br>・予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。<br>(2)<br>・現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。<br>・感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。<br>(3)<br>・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進についての学習に自主的に取り組んでいる。<br>・感染症とその予防についての学習に自主的に取り組んでいる。 |
|            | 10  |  |  |  |
|            | 11  |  |  |  |
|            | 12  |  |  |  |
| 第3<br>学期   | 1   |  |  |  |
|            | 2   |  |  |  |
|            | 3   |  |  |  |

| 教科・科目      | 学年  | 単位数  | 教科書  | 補助教材  |
|------------|---|--|--|---|
| 保健体育<br>保健 | 2年  | 1単位  | 高等学校保健体育<br>(第一学習社)  | なし  |
| 教科科目<br>目標 | 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 |  |  |   |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。                     |  |   |
|            | (2)思考・判断・表現   | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 |  |   |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。             |  |   |
| 評価方法       | 定期考査、授業の取り組み、課題(ノート、プリント)   |  |  |   |
| 学期         | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準   |
| 第1学期       | 4   | 第3章 生涯を通じる健康<br>第1節 生涯の各段階における健康                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期や結婚生活、加齢と健康について理解することができる。</li> <li>・思春期や結婚生活、加齢と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</li> <li>・思春期や結婚生活、加齢と健康についての学習に主体的に取り組むことができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。</li> <li>(2) 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。</li> <li>(3) 思春期や結婚生活、加齢と健康についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>  |
|            | 5   |  |  |   |
|            | 6   | 第2節 労働と健康  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働と健康について理解することができる。</li> <li>・労働と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</li> <li>・労働と健康についての学習に主体的に取り組むことができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえ適切な健康管理及び安全管理をする必要があること。</li> <li>(2) 労働と健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。</li> <li>(3) 労働と健康についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>  |
|            | 7   |  |  |   |
| 第2学期       | 9   | 第1章 健康を支える環境づくり<br>第1節 環境・食品と健康                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動について理解することができる。</li> <li>・環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・食品の安全性や食品衛生に関わる活動について理解することができる。</li> <li>・食品の安全性や食品衛生に関わる活動についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。</li> <li>・それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。</li> <li>・環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとしよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</li> <li>・食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。</li> <li>・食品衛生活動は、食品の安全性を確保しよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</li> <li>(2) 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。</li> <li>(3) 環境の汚染と健康、環境と健康に関わる対策、環境衛生に関わる活動についての学習に主体的に取り組む</li> </ul>   |
|            | 10  |  |  |   |
|            | 11  |  |  |   |
|            | 12  |  |  |   |
| 第3学期       | 1   | 第2節 保健・医療制度と機関   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用について理解することができる。</li> <li>・様々な保健活動や社会的対策について理解することができる。</li> <li>・健康に関する環境づくりと社会参加について理解することができる。</li> <li>・健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。</li> <li>・医薬品は、有効性及び安全性が審査されており、販売には制限があること。</li> <li>・疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。</li> <li>・我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていること。</li> <li>・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。</li> <li>・それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であること。</li> <li>(2) 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明している。</li> <li>(3) 我が国の保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> </ul> |
|            | 2   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国の保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・様々な保健活動や社会的対策についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> <li>・健康に関する環境づくりと社会参加についての学習に主体的に取り組んでいる。</li> </ul>  |   |
|            | 3   |  |  |   |

| 教科・科目      |  | 学年  | 単位数  | 教科書   | 補助教材   | 担当者   |
|------------|--|---|--|---|--|---|
| 芸術・音楽      |  | 1   | 2  | MOUSA1  | Music Note   | 杉山 和代   |
| 教科科目<br>目標 | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |   |  |   |  | 実施クラス   |
|            |  |   |  |   |  | 11～14H  |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能<br>※「知識」と「技能」とに整理し、二つに分けて示している。                                   | ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。<br>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。                     |  |   |  |   |
|            | (2)思考・判断・表現  | ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。 |  |   |  |   |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度   | ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。  |  |   |  |   |
| 評価方法       | 演奏の聴取、追求途中の表現、意見発表やプレゼンテーション、グループでの話し合いでの発言、活動時の観察、自己評価や相互評価、ワークシート        |   |  |   |  |   |
| 学期         | 月  | 学習内容(内容のまとまり、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準   |  |   |
|            |  |   |  | (1)知識・技能  | (2)思考・判断・表現  | (3)主体的に学習に取り組む態度  |
| 第1学期       | 4  | A表現(1)歌唱<br>「豊かな響きで歌おう」<br>校歌<br>Ave Maria<br>小さな空  | ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解を深め、歌唱に対する意識をもち、発声の基本や視唱(読譜)の力を育みながら、楽曲に合った歌唱法の工夫をする。   | 【知】曲想と歌詞との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、楽曲にふさわしい発声、言葉(歌詞)の発音などの技能を身に付けている。  | ・旋律や声の音色を理解して、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。  | ・曲にふさわしい発声に関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。  |
|            | 5  | A表現(1)歌唱<br>「日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう」<br>ベルカント唱法<br>Caro mio ben<br>Heidenröslein<br>むこうむこう<br>この道               | ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う。   | 【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。   | ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。   | ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。   |
|            | 6  | A表現(2)器楽<br>「ボディ・パーカッションに挑戦しよう」<br>リズム練習<br>Plymouth Rock   | ・それぞれの奏者の演奏する役割や曲想と音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けるとともに、他者と協働しながらイメージをもって表現を工夫して演奏する。  | 【知】拍子と音価の関係を理解し、正しいリズム表現ができる。<br>【技】創意工夫を生かしたリズム表現をするために必要な奏法や身体の使い方などの技能を身に付け、メンバーとの調和を意識して演奏している。   | ・音色、リズム、速度、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。   | ・音色の工夫やリズムパターンの変化と曲想との関わり、他者との調和を意識して演奏することに関心をもち、主体的・協働的にアンサンブル活動に取り組もうとしている。  |
|            | 7  |   |  |   |  |   |
| 第2学期       | 9  | A表現(2)器楽<br>「表現を工夫してギターを演奏しよう」<br>基本練習<br>第三の男のテーマ他<br>コードネームの基礎<br>世界の諸民族の音楽の魅力(弦楽器)                               | ・ギターに興味をもち、音階や和音(コード、ダイアグラム)の学習から、旋律を弾いたりコード演奏したりして、曲調にふさわしい表現の工夫をする。  | 【知】曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。   | ・音色、リズム、テクスチャを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。  | ・曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。  |
|            | 10   | A表現(3)創作<br>「コード進行をもとにメロディーを作ろう」<br>コード進行<br>コード進行をもとにメロディーを作ろう   | ・音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する。   | 【知】音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能、及び旋律をつくったり、つくった旋律に副次的な旋律や和音などを付けた音楽をつくったりする技能を身に付け、創作で表している。   | ・リズム、旋律、テクスチャの関係を理解し、それらの働きを感じ、特徴をとらえて、どのように音楽を作り出し、自ら表現するかについて表現意図をもっている。   | ・音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音型などの特徴及び構成上の特徴に関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。  |
|            | 11   | A表現(1)歌唱<br>「ミュージカルナンバーを歌おう」<br>Memory□<br>美女と野獣<br>舞台芸術  | ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。  | 【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。  | ・音色、リズム、速度、旋律、構成を知覚して、それらの働きを感じ、音楽の美しさや特徴をとらえて、どのように歌唱表現するかについて表現意図をもっている。   | ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心をもち、物語や登場人物、それぞれのナンバーに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。   |
| 12         |  |   |  |   |  |   |
| 第3学期       | 1  | A表現(1)歌唱 B鑑賞<br>「オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう」<br>(歌唱)ハバナ<br>闘牛士の歌<br>(鑑賞)オペラ《カルメン》  | ・オペラなどの総合芸術において物語と音楽が関わり合いながらどのような表現上の効果をもたらしているか、音楽と他の文化が互いにどのように影響を合せて発展してきたかを理解するとともに、アリアを歌唱するためにふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。 | 【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。<br>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。<br>【知】音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。                           | ・音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。<br>・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 | ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。<br>・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。                             |
|            | 2  | A表現(1)歌唱 B鑑賞<br>「能や謡に親しもう」<br>(歌唱)能《高砂》から□<br>能《羽衣》から<br>(鑑賞)能《道成寺》   | ・能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。  | ・謡(ツヨ吟、ヨウ吟)の曲想と音楽の構造や詞章、文化的・歴史的背景との関わり、及び謡の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。<br>・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、謡にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。<br>・能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 | ・音色、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように謡うかについて表現意図をもっている。<br>・音色、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように謡うかについて表現意図をもっている。   | ・謡の曲想と音楽の構造や詞章、文化的・歴史的背景との関わり、及び謡の言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。<br>・能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |
|            | 3  |   |  |   |  |   |

| 教科・科目      |  | 学年  | 単位数   | 教科書  | 補助教材   |
|------------|--|---|---|--|--------|
| 芸術・美術 I    |  | 1年  | 2単位   | 高校生の美術<br>(日本文教出版)   | 各種プリント |
| 教科科目<br>目標 | 美術の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |   |   |  |        |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能   | 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。                                     |   |  |        |
|            | (2)思考・判断・表現  | 創造的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。 |   |  |        |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度   | 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。                      |   |  |        |
| 評価方法       | 作品、プリント、授業態度   |   |   |  |        |
| 学期         | 月  | 学習内容(内容のまとめ、章)  | 学習目標  | 観点別評価規準  |        |
| 第1学期       | 4  | (絵画)<br>・身近なものを描く   | ・美術とは何かを考える<br><br>・新たな視点で見つけた形や色のよさや美しさ、愛着などを基に、存在感や雰囲気をつまえて描く。  | ・形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージなどを捉え、線の強弱や線の具などの特性を生かして表している。<br>・身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞することができる。<br>・身近なものの特徴や美しさなどを捉えて表す創作活動に、主体的に取り組もうとしている。  |        |
|            | 5  |   |   |  |        |
|            | 6  |   |   |  |        |
|            | 7  |   |   |  |        |
| 第2学期       | 9  | (デザイン)<br>・イラストレーションの魅力   | ・伝えたい本の内容などを基に、伝達したいイメージを捉え、イラストレーションによる伝達の効果を考え、構想を練り、表現方法を工夫し表す。  | ・意図に応じて描画材などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して表している。<br>・感じとったことや考えたことなどを基に、イラストレーションのよさや美しさ、伝えたい内容を表すための表現の工夫を考えて構想を練っている。<br>・画材や表現方法などを工夫してイラストレーションで表す活動に、主体的に取り組もうとしている。   |        |
|            | 10   |   |   |  |        |
|            | 11   |   |   |  |        |
|            | 12   |   |   |  |        |
| 第3学期       | 1  | (映像メディア表現)<br>・映像に包まれて  | ・光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージを捉える。<br>・映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考える。<br>・映像表現のよさや美しさなどを鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。 | ・形や色彩、光、空間、動きなどの性質及びそれらが人の感情にもたらす効果や、映像作品の印象や特徴などを基に、全体のイメージを捉えることを理解している。<br>・映像表現の特質や投影による表現効果などを感じ取り、作者の心情や表現の意図と機器の特性を生かした創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。<br>・映像表現の特質や投影による表現効果などを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。 |        |
|            | 2  |   |   |  |        |
|            | 3  |   |   |  |        |



| 教科・科目          | 学年  | 単位数   | 教科書  | 補助教材  |
|----------------|---|---|--|---|
| 芸術<br>書道 I     | 1年  | 2単位   | 書 I<br>(光村図書出版)  | 各種プリント  |
| 教科<br>科目<br>目標 | 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 |   |  |   |
| 観点別<br>目標      | (1)知識・技能  | 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。                   |  |   |
|                | (2)思考・判断・表現   | 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。                        |  |   |
|                | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。                |  |   |
| 評価方法           | 作品、プリント、仮名の字母テスト、授業態度   |   |  |   |
| 学期             | 月   | 学習内容(内容のまとめ、章)  | 学習目標   | 観点別評価規準   |
| 第1学期           | 4   | 書道で学習すること<br>書写から書道へ  | 書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。  | 楷書の古典に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。<br><br>主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の<br>学習活動に取り組もうとしている。   |
|                | 5   | 【漢字の書】<br>●楷書<br>・漢字の変遷とさまざまな書体<br>・孔子廟堂碑<br>・九成宮醴泉銘<br>・雁塔聖教序<br>・顔氏家廟碑<br>・北魏の書<br>・唐の四大家について(鑑賞) | 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。<br><br>楷書の古典に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。 |   |
|                | 6   |   |  |   |
|                | 7   | 篆刻(導入)  | 印の用途や押印したときの表現効果を考慮して、作品を構想することができる。   |   |
| 第2学期           | 9   | 篆刻(姓名印制作)   | 篆刻制作の手順を理解し、選文・検字や布字、運刀に関する知識や技法を習得することができる。   | 篆刻制作の手順を理解し、選文・検字や布字、運刀に関する知識や技法を理解している。<br>篆刻に関心をもち、主体的に制作に取り組んでいる。<br>行書の古典に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につけている。<br>主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の<br>学習活動に取り組もうとしている。<br>漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。<br>仮名の古筆に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につけている。<br>主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の<br>学習活動に取り組もうとしている。 |
|                | 10  | ●行書<br>・蘭亭序 ・風信帖<br><br>・古典を生かした創作  | 行書の古典に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。<br>漢字の古典の書体や書風に即した用筆・<br>運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。            |   |
|                | 11  | 【仮名の書】<br>・仮名の成立と種類(鑑賞)<br>・仮名の筆使い ・平仮名<br>・変体仮名 ・連綿 ・蓬萊切<br>・継色紙 ・寸松庵色紙<br>・升色紙                    | 仮名の古筆に基づく基本的な用筆・<br>運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。  |   |
|                | 12  |   |  |   |
| 第3学期           | 1   | ・古筆を生かした制作  | 仮名の古筆の書風に即した用筆・<br>運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。   | 仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。<br><br>目的や用途に即した効果的な表現、<br>漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身につけている。<br>主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。<br>主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。   |
|                | 2   | 【漢字仮名交じりの書】<br>テーマ「今の自分を見つめてみよう」  | 漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。                             |   |
|                | 3   | 鑑賞<br>・漢字仮名交じりの書<br>作品鑑賞会   | 作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。   |   |

| 教科・科目                   |  | 学年   | 単位数  | 教科書   | 補助教材  |   |
|-------------------------|--|--|--|---|---|---|
| English Communication I |  | 1  | 3  | BLUE MARBLE English Communication I   | ・BLUE MARBLE English Communication I ナビゲーションノート(数研出版)<br>・BLUE MARBLE English Communication I ワークブック(数研出版)              |   |
| 教科科目目標                  | 外国語におけるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれら結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 |  |  |   |   |   |
| 観点別目標                   | (1)知識・技能   | 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。     |  |   |   |   |
|                         | (2)思考・判断・表現  | コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 |  |   |   |   |
|                         | (3)主体的に学習に取り組む態度   | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。  |  |   |   |   |
| 評価方法                    | 定期考査、パフォーマンステスト(話すこと)、ペアワーク、グループワークでの取り組み、課題(授業課題及びその他各種課題)を基に総合的に評価する。  |  |  |   |   |   |
| 学期                      | 月  | 学習内容(内容のまとめ、章)   | 学習目標   | 観点別評価規準   |   |   |
|                         |  |  |  | (1)知識・技能  | (2)思考・判断・表現   | (3)主体的に学習に取り組む態度  |
| 第1学期                    | 4  | ■ Lesson 1 Friendships in the Digital Age  | デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書くことができる。   | 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を書いたりする技能を身に付けている。  | デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたりしている。  | デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたりしようとしている。  |
|                         | 5  | ■ Lesson 2 Expos: Past, Present, and Future  | 全Partを通した本文を聞いて概要を把握することができる。  | 万博とその開催意義に関する英文を聞き、その内容を理解する技能を身に付けている。   | 万博とその開催意義に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えている。  | 万博とその開催意義に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えようとしている。  |
|                         | 6  | ■ Lesson 3 The Fascinating World of a Professional Storyteller   | 本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。                                | 自分の好きな人物について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。  | 聞き取った内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったりしている。  | 聞き取った内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったりしている。  |
|                         | 7  | ■ Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways  | 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。  | 新出語やKey Phrases、Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、仕掛けとソーシャルデザインについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。   | 仕掛けとソーシャルデザインについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。   | 仕掛けとソーシャルデザインについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。   |
| 第2学期                    | 9  | ■ Lesson 5 A Journey to Peace  | ルワンダ内戦とマリールイスについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話すことができる。  | 各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Languageの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を話したりする技能を身に付けている。  | 各Part 本文の内容(ルワンダ内戦とマリールイス)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したりしている。  | 各Part 本文の内容(ルワンダ内戦とマリールイス)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したりしようとしている。  |
|                         | 10   | ■ Lesson 6 Humans Evolve with Measurements   | 全Partを通した本文を聞いて概要を把握することができる。  | 単位の歴史に関する英文を聞き、その内容を理解する技能を身に付けている。   | 単位の歴史に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えている。  | 単位の歴史に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えようとしている。  |
|                         | 11   | ■ Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets   | 各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。<br>・本文で扱った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しい英文を表現できる。   | 新出語やKey Phrases、Key Languageの言語材料、本文の論理展開の理解を基に、バイオロギング研究やその研究事例について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。<br>・関係副詞(when / where / why / how)を理解し、正しい英文を書く技能を身に付けている。   | バイオロギング研究について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。<br>・身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現している。        | バイオロギング研究について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。<br>・身近なテーマに関する設定を理解し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現しようとしている。        |
|                         | 12   | ■ Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists   | 本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見をやり取りすることができる。                                | 訪日外国人増加について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。   | 聞き取った内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、学習した語句や表現を用いて話し合ったりしている。  | 聞き取った内容に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、学習した語句や表現を用いて話し合ったりしようとしている。  |
| 第3学期                    | 1  | ■ Lesson 9 Surviving in the Information Age  | 全Partを通した本文を聞いて概要を把握することができる。<br>・本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書くことができる。        | 正しい情報の見極め方に関する英文を聞き、その内容を理解する技能を身に付けている。<br>・各Part 本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrasesの言語材料を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を書いたりする技能を身に付けている。                  | 正しい情報の見極め方に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えている。<br>・各Part 本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたりしている。                   | 正しい情報の見極め方に関する英文を全Part通して聞き、概要を捉えようとしている。<br>・各Part 本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書いたりしようとしている。                   |
|                         | 2  | ■ Lesson 10 The Spirit of Zen: Less Is More  | 全Partを通した本文の概要を把握することができる。<br>・本文の内容を自分のことばで簡潔に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を聞いて、意見を話したりすることができる。 | 禅の精神と世界への影響に関する英文を読み、その内容を理解する技能を身に付けている。<br>・本文の内容に関連するテーマについて、「比較する」に関する機能表現を用いて、自分の意見を話したりする技能を身に付けている。<br>・マインドフルネスについて、事実や自分の考えを整理して伝える技能を身に付けている。 | 禅の精神と世界への影響に関する英文を全Part通して読み、概要を捉えている。<br>・本文の内容を簡潔にまとめ、適切な表現を用いて話したり、本文に関連したテーマについて、学習した機能表現を用いて、50語以上で自分の意見を話したりしている。 | 禅の精神と世界への影響に関する英文を全Part通して読み、概要を捉えようとしている。<br>・本文の内容を簡潔にまとめ、適切な表現を用いて話したり、本文に関連したテーマについて、学習した機能表現を用いて、50語以上で自分の意見を話したりしようとしている。 |
|                         | 3  |  |  |   |   |   |





| 教科・科目      | 学年  | 単位数   | 教科書   | 補助教材  |   |
|------------|---|---|---|---|---|
| 情報 I       | 2年  | 2単位   | 高等学校 情報 I<br>(数研出版)   | 高等学校 情報 I サポートノート<br>(数研出版)   |   |
| 教科科目<br>目標 | 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。 |   |   |   |   |
| 観点別<br>目標  | (1)知識・技能  | 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。  |   |   |   |
|            | (2)思考・判断・表現   | 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。                      |   |   |   |
|            | (3)主体的に学習に取り組む態度  | 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。   |   |   |   |
| 評価方法       | 定期考査, 実習 (Googleフォーム等を利用) の取り組み実績およびレポート, 提出課題  |   |   |   |   |
| 学期         | 月   | 学習内容 (内容のまとめ、章)   | 学習目標  | 観点別評価規準   |   |
| 第 1 学期     | 4   | 第1編 情報社会の問題解決<br>第1章 情報とメディア  | <ul style="list-style-type: none"> <li>様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。</li> <li>個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。</li> <li>情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。</li> </ul>   | (1)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解している。</li> </ul> (2)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察している。</li> </ul> (3)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> </ul>  |   |
|            |   | 第2章 情報社会における法とセキュリティ  |   |   | (1)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報デザインが人や社会にはたしている役割を理解している。</li> <li>効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身につけている。</li> </ul> (2)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的にとらえ、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。</li> <li>コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。</li> </ul> (3)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。</li> <li>情報デザインを効果的に活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> </ul> |
|            |   | 第3章 情報技術が社会に及ぼす影響   |   |   |   |
|            | 5   | 第2編 コミュニケーションと情報デザイン<br>第1章 情報のデジタル表現   | <ul style="list-style-type: none"> <li>アナログとデジタルのちがいとデジタル情報の特徴を理解させる。</li> <li>ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。</li> <li>デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。</li> <li>情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させる。</li> </ul>   | (1)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報デザインが人や社会にはたしている役割を理解している。</li> <li>効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身につけている。</li> </ul> (2)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的にとらえ、それらを目的や状況に応じて適切に選択している。</li> <li>コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えている。</li> </ul> (3)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。</li> <li>情報デザインを効果的に活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> </ul> |   |
|            |   | 第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴   |   |   |   |
|            |   | 第3章 情報デザイン  |   |   |   |
|            |   | 第4章 プレゼンテーション   |   |   |   |
| 6          | 第3編 コンピュータとプログラミング<br>第1章 コンピュータのしくみ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。</li> </ul> | (1)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し、技能を身につけている。</li> <li>社会や自然などにおける事象をモデル化する方法、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解している。</li> </ul> (2)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察している。</li> <li>目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果をふまえて問題の適切な解決方法を考えている。</li> </ul> (3)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決の結果を振りかえり改善しようとしている。</li> <li>身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとするなどを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> </ul> |   |   |
|            | 第2章 プログラミング   |   |   |   |   |
| 第 2 学期     | 9   | 第3章 モデル化とシミュレーション   | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。</li> </ul>   | (1)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報通信ネットワークのしくみや構成要素、プロトコルの役割および情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解している。</li> <li>データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供するしくみと特徴について理解している。</li> <li>データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し、技能を身につけている。</li> </ul>  |   |
|            |   | 第4編 情報通信ネットワークとデータの活用<br>第1章 ネットワークのしくみ   |   |   |   |
|            | 10  | 第2章 データベース  | <ul style="list-style-type: none"> <li>データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。</li> <li>データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。</li> <li>データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。</li> <li>表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。</li> <li>データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択するとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。</li> </ul>  | (2)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考えている。</li> <li>情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えている。</li> <li>データの収集、整理、分析および結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善している。</li> </ul> (3)<br><ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。</li> <li>データを多面的に精査し、情報システムが提供するサービスを効果的に活用しようとしている。</li> <li>情報セキュリティなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。</li> </ul>  |   |
| 11         | 第3章 データの分析  |   |   |   |   |
| 12         |   |   |   |   |   |
| 第 3 学期     | 1   |   |   |   |   |
|            | 2   |   |   |   |   |
|            | 3   |   |   |   |   |